

第 32 回 淑瞳会

●講演者プロフィール 講演抄録

小泉範子 同志社大学生命医科学部医工学科 教授



略歴

1994 年 京都府立医科大学卒業、京都府立医科大学眼科学教室入局
2000 年 京都府立医科大学大学院医学研究科修了
同年 ドイツ・ケルン大学 フンボルト財団博士研究員
2003 年 同志社大学再生医療研究センター 助教授
2008 年 同志社大学生命医科学部医工学科 准教授
2010 年 同志社大学生命医科学部医工学科 教授 現在に至る
京都府立医科大学客員教授、京都大学臨床准教授を兼任
日本角膜学会評議員、日本眼感染症学会評議員

『角膜内皮疾患に対する新規治療法の開発』

角膜内皮細胞はバリア機能とポンプ機能を持つことによって、角膜実質の含水率を一定に保ち角膜の透明性を維持しています。ヒトやサルなど霊長類の角膜内皮細胞は、生体内ではほとんど増殖しないことが知られており、外傷や内眼手術、Fuchs 角膜内皮ジストロフィなどの疾患によって広範囲に障害されると、水疱性角膜症による重症の視力障害を生じます。水疱性角膜症に対する唯一の治療法はドナー角膜を用いた角膜移植であり、近年は DSAEK や DMEK などの角膜内皮移植によって良好な視力回復が得られるようになりました。しかし現在でも、ドナー不足や拒絶反応、内皮細胞減少による移植片不全など、解決しなくてはならない課題が残されています。私たちの研究室では角膜内皮疾患に対する新しい治療法の開発に取り組んでおり、培養角膜内皮細胞の前房注入による再生医学的治療や、Rho キナーゼ阻害剤などの薬物を用いて角膜内皮細胞を増殖させることにより、水疱性角膜症を治療する点眼薬の開発を行っています。一部のものはすでに京都府立医科大学における臨床研究が開始されており、近い未来に臨床現場での実用化が期待されています。本講演では、角膜内皮移植の現状と角膜内皮トランスレーショナル研究の最前線をご紹介します。

●演奏者プロフィール

井上太郎



1981 年兵庫県宝塚市生まれ、14 歳でマンドリンを弾き始める。
関西学院高等部を卒業後渡米し、East Tennessee State University に入学。
ブルーグラス学科で Jack Tottle, Raymond McLain に師事。2011 年 TARO&JORDAN 結成。
2012 年 1st アルバム "DID I LAUGH IN YOUR DREAM?" を発表。現在は自身のバンドの他に、Detroit7 のドラム山口美代子とのデュオ、TARO&JORDAN にフィドルの Casey Driessen を加えた Pacific Rim Acoustic All Stars、the DEXSTRINGS 等で活動。
今回は、井上太郎 & ザ・ブルーグラスとして、ギター宮永浩次、バンジョー今村日利、ベース神納義之とともに、ストレートなブルーグラスの魅力をお伝えする。

